

# 令和5年度 みくま 事業報告書

## 1 総括

令和4年度に事業管理体制の変更を行い2年が経過した。定められた各種記録や手続き等は適切に行えており、事業管理においては大幅に改善した。また、利用者支援においても個別支援計画、支援の記録、評価などにおいて全体的に質の向上や職員間の連携が進んだと感じている。また、令和5年度は1月に弁当のリニューアルを実施した。一部顧客からの弁当の質の向上に対する要望に応えたもので、顧客へのアンケートを基に副菜の充実や揚げ物が多かった主菜のメニュー変更等に取り組んだ。試作用の原材料費にコストがかかったが、リニューアルに対して顧客からは好評を得て、売り上げが伸びたこともあり、収支は好調であった。一方で、弁当への異物混入事故が9月（紙片）と1月（髪の毛）の計2件発生したことは大きな反省点となった。いずれも製造過程で混入した可能性が高く、使用する用具の種類や使用方法の変更等の再発防止策を講じ、これ以降事故は起きていない。今回の事故で顧客への健康被害等はなかったが、改めて危機管理の重要性をスタッフ全体で確認したところである。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 みくま
- 2) 事業種別 就労継続支援A型
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-12
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 17名
- 6) 利用現員 18名（令和6年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成25年 1月 1日
- 9) 職員  
管理者 1名  
サービス管理責任者 1名  
職業指導員 1名 （常勤換算1.0）  
生活支援員 6名 （常勤換算2.8）

## 3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

## 4 基本方針

- 1) 就労支援  
「みくま」の従業員として能力が発揮できるように、個々の状況にあった作業を提供する。また、一般企業で働く為のステップアップとして、就労に向けた相談や就職活動に関して支援する。
- 2) 生活支援  
利用者が安心、安定した生活ができるよう支援を行う。一般企業へのステップアップを希望している利用者に対しては、生活面等の課題を把握し就労に向けた生活全般の支援を関係機関と連携しながら行う。

## 5 実施事業（活動内容）

- 1) 就労支援事業
  - (1) 弁当製造・販売
  - (2) 清掃及び受注事業
  - (3) 緑化推進事業
- 2) 行事
  - (1) バスハイク（年1回実施）

6 日 課

開所・作業	7 : 30 ~ 12 : 20
昼礼	12 : 20 ~ 12 : 30
休憩	12 : 30 ~ 13 : 30
作業・記録等	13 : 30 ~ 17 : 30

7 重点課題・目標

1) 活動

(1) 就労支援事業の充実

① 弁当製造事業安定のため次のことを実施する。

ア. 安定収入を確保する

- ・近隣の企業や医療機関等へチラシの配布など営業活動を行い、新規に顧客を増やす。
- ・弁当の委託販売先を増やすための営業活動（電話・チラシ配布）を行う。

	1日平均 日替弁当売上	年間売上
令和4年度実績	224個	2,619万円
令和5年度目標	220個	2,650万円
増加分	-4個	31万円

※令和4年11月に価格改定（50円値上げ）を行ったため、令和5年度の目標販売個数が令和4年度の実績を下回っても、売上は増加する。

【成果と課題】

メニュー配布や関係機関からの紹介などの営業活動に力を入れ、新規顧客34件を獲得することが出来た。また、企業の研修時や、建設現場からの注文などの増加や、1月に行った弁当のリニューアルの効果もあり、販売数、売上ともに目標を達成した（下記表参照）。リニューアルに向けた試作用の食材購入や仕入品目の変更で食材費が増加したが、前述のように売上個数の増加により黒字収支となった。

◆弁当売上個数及び売上金額

	1日平均売上個数	売上金額
令和5年度目標	220個	2,650万円
令和5年度実績	242個	2,981万円（目標達成率：112.4%）

イ. 内容充実のための取り組み

- ・衛生管理の徹底 — HACCP（※1）の考え方を取り入れた衛生管理マニュアルを遵守するとともに、異物混入防止を徹底する。
- ・弁当内容の充実 — メインメニューおよび副菜の見直しを定期的に行うとともに、盛り付け方法や容器、彩りを工夫し、購買意欲を促進する。

（※1）HACCPとは・・・安全な食品を製造するための製造工程の管理方法のこと

【成果と課題】

・ 衛生管理の徹底

9月に日替り弁当1食に紙片が混入する事故が起き、再発防止策として、厨房内からペーパータオルを撤去し、不織布ウエスを導入した。また、1月には日替り弁当1食に毛髪が混入する事故が起きた。再発防止策として帽子の下に被るネットを、より毛髪落下を防止する機能が高いと考えられる製品に変更するとともに、白衣や帽子などの正しい着用方法の講習会を行った。それぞれの再発防止策を実施後に事故は起きていない。また、令和4年度よりHACCPの考え方を取り入れた衛生管理マニュアルを導入し、日々チェック表を記入している。（事故と再発防止策の詳細は9に記載）

・ 弁当内容の充実

6月に顧客へ弁当のリニューアルに関するアンケートを行い、回答の約6割が、リニューアルが必要との結果だった。揚げ物の多さに対する指摘や、野菜を使ったメニューの増加を希望する回答が多かったため、主に揚げ物以外の主菜や、野菜を使ったメニュー（主に副菜）の充実を目指し、メニューの試作を行うとともに新たな仕入先の新規開拓を行った。9月に新メニューの試食会を法人内で開催し、9月

末には外部の顧客に試作メニューの評価を依頼し、モニタリングを実施した。法人内の試食会、外部顧客のモニタリングともに概ね好評だったため、10月に理事会での試食会を開催し、令和6年1月からリニューアルを実施した。リニューアルにあたり容器の変更も検討したが、見栄えにあまり変化がないことや盛り付け方法の変更が生じることによる現場の負担などを考慮し、当面は従来の容器を使用することとした。また、小平市内の農家から野菜を購入し弁当の食材とする取り組みも行い、現在は主菜2品目で使用している。令和6年度も農家で購入した野菜を使用したメニューを増加する予定である。

- ② 新規作業を実施する。  
不定期の作業を含め、作業時間や人員を有効に使える作業を積極的に取り入れる。

【成果と課題】

令和5年度は弁当の新メニューの試作を重点的に行い、新規作業は実施しなかった。

- ③ その他の作業を含め収益増加を目指す。(概算、単位：円)

	令和5年度売上目標	令和4年度実績	差額
弁当製造事業	2,650万	2,619万	31万
清掃作業	491万	491万	0万
緑化推進事業	130万	130万	0万
利用者支援業務	15万	15万	0万
名刺の作成作業	15万	13万	2万
その他受注作業等	15万	12万	3万
合計	3,316万	3,280万	36万

【成果と課題】

就労支援事業全体では、年間売上目標の3,316万円に対して、3,670万円の売上があり、達成率は110.6%となった。(下記表参照)。弁当事業を始めとして、概ね安定した売上が確保できている。下半期には最低賃金の上昇に利用者賃金の増加や、リニューアルに伴う食材費の増加があったが、弁当製造事業の売上増加もあり、収支状況は良好であった。

《概算》	令和5年度売上目標(円)	令和5年度実績	目標達成率
弁当製造事業	2,650万	2,981万	112.4%
清掃作業	491万	506万	103.0%
緑化推進事業	130万	130万	100.0%
利用者支援業務	15万	19万	126.6%
名刺の作成作業	15万	20万	133.3%
その他受注作業等	15万	14万	93.3%
計	3,316万	3,670万	110.6%

- (2) 利用者支援の充実(PDCAサイクルの実施)

- ① 利用者個々の状況や希望に応じた個別支援計画を作成し、支援方針や目標を共有する。
- ② 計画に基づいた支援を行う。
- ③ 支援経過を丁寧に記録し、情報共有や意見交換等による支援経過や成果について評価を行う。
- ④ 必要に応じて計画の変更、見直しを行う。

【成果と課題】

利用者全員と面談を行い、職員からの評価を伝えるとともに本人の希望を聞きとり、個別支援計画を作成した。職員間の意見交換は活発に行え、チーム支援の実施やPDCAサイクルに関する意識は少しずつ向上していると感じる。また、概ね丁寧な評価とそれに基づいた個別支援計画の見直し及び作成はできていると感じるが、上半期はケース記録に支援上の重点と記載内容が合致していない記録が散見されるなど、計画に基づいた支援と記録に関する意識はまだ不十分だった。下半期に改善に取り組み、支援上の重点と記載内容が合致していない記録が減少するなど、少しずつではあるが計画を意識した記載が増えていると感じる。また、心情面や利用者の良い変化の記載が増えているが、課題に対する今後の支援方針についての検討が不十分であり、今後の課題である。

## 2) 人材育成

### (1) 利用者の心情理解

- ① 傾聴による気持ちの安定化
- ② 長所の評価などによる意欲の向上
- ③ 課題解決策の提示、提案

#### 【成果と課題】

- ① 利用者とは概ね良好な関係が築けている。利用者からは、仕事面だけではなく私生活や体調、人間関係などに関する相談も多いが、概ね丁寧に対応していると感じている。相談や助言の内容をミーティングで共有し、意見交換など行うことで利用者の状況の共有や支援方法の統一が進んだ。
- ② 令和4年度から、利用者の長所に目を向け、それを本人に積極的に伝える取り組みを行っている。取り組みを始めた当初よりも、職員ミーティングで利用者の良い点に関する発言が増えるなど、良い点に目を向ける姿勢や、それを利用者に積極的に伝えることが根付いてきている。
- ③ 「7-1-（3）利用者支援の充実（PDC Aサイクルの実施）」に記載。

### (2) 業務スキルの向上を図る。

- ① 職業指導の充実
- ② 利用者の状況や課題の整理とその記録
- ③ リスク管理

#### 【成果と課題】

- ① 利用者に新たな作業に携わる提案を積極的に行うとともに、現在、携わっている作業が更に上達するようアドバイスを行った。職員がOJTによる指導を行い、指導内容や結果などを職員間で共有することで、職業指導に対する意識が高まり、少しずつではあるが、利用者への伝達方法についてスキルが向上してきたと感じる。業務の幅が広がっている利用者も増えている。
- ② 職員間で利用者の状況や課題についての情報共有は概ねスムーズに行えた。また、ケース記録において課題や状況、現場での対応に関しては概ね記載されているが、今後の支援方法や支援の方向性に関する記載が少なく、今後の課題と考えている。
- ③ 異物混入事故が2件発生した。詳細は「8事故報告」に記載。

### (3) 職員の連携強化（情報共有、チームとしての支援）

#### 【成果と課題】

日々のミーティングが定着したことで、職員間の情報共有や意見交換は活発に行えており、チーム支援の意識が根付いてきている。

## 3) 経営管理

### (1) 利用待機者の確保を行い経営基盤の安定を図る

- ① 近隣の関係機関リストをもとに、ワークセンター夢の樹就労移行支援、定着支援、baumと連携し、近隣の特別支援学校、就労支援センター、特定相談支援事業所、就労継続支援B型事業所等へ利用待機者の募集を行う。
- ② 法人機関紙およびホームページへ募集案内を掲載、チラシ配布、ポスター掲示などの広報活動により利用者待機者の募集を行う。
- ③ 利用者用就業規程を創設し、報酬算定の基準となる就労継続支援A型事業所におけるスコアの安定化を図る。

#### 【成果と課題】

令和5年度の新規利用者は3名で、1名は小平市内の就労継続支援B型（食事サービスセンターなごみ）からの紹介で、もう1名は個人からの見学依頼が利用に結びついた。他1名は法人内の他事業所の利用者であり、実習を行った結果、利用に結びついた。利用者確保の取り組みとしては、近隣の就労支援センター5件、特別支援学校3校に訪問や、電話連絡等で利用者の紹介の依頼を行った。見学、実習の問い合わせはあったが、利用や利用待機に結びついたケースはなかった。（見学14名、実習3名を受け入れた。）3名が利用を開始した一方で雇用契約者2名と利用契約者1名が退所した。退所した雇用契約者1名は職場環境が合わないことが退所理由であり、現在は他の就労継続支援A型事業所へ通所している。もう1名は令和6年4月1日付で当事業所の契約職員として採用したことにより退所した。利用契約者1名の退所理由ははっきりとは分からず、現在は併用利用していた就労継続支援B型事業所へ通所している。

3月末時点での利用者数は雇用契約者11名、利用契約者7名の計18名で、1日平均利用者数は14.2名となり、黒字収支となった。3月末時点で雇用契約者1名、利用契約者1名の受入れが可能であり、利用者確保に継続して取り組んでいる。

4月に利用者就業規則を創設し、雇用契約の利用者（週25時間勤務）は時間単位で有給休暇の取得が可能になるなど、待遇面の向上が図られた。また、報酬算定の基準となる就労継続支援A型事業所におけるスコアの安定化（令和6年度以降）にもつながった。

(2) 各種記録の整備など、事業管理に必要な事項の遂行を徹底するとともに、その経過等を確実に記録に残す（令和3年度の不備の改善）。

**【成果と課題】**

事業管理に必要な会議・消防関係等の書類の整備は計画通り行えている。

(3) 経営状態を把握し必要な対策を講じる

毎月、月次試算報告を行い、財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図ると共に、年度の収支予測を丁寧に行い、黒字収支に向けた目標を随時確認、または必要に応じて変更する。

**【成果と課題】**

職員会議で月次試算表をもとに経営分析の結果を報告し経営状態を毎月確認した。経営状況は概ね安定していた。

## 8 事故報告

### 1) 紙片購入事故

9月に弁当の盛り付けの過程で白米に紙片（ペーパータオルの破片）が混入する事故があった。はっきりした原因は分かっていないが、弁当箱に付着した水分などを拭き取った際に、水分を含み破れやすくなったペーパータオルが破れ、弁当箱内に残留したことや、盛り付け場所周辺や手洗い後に水分を拭いた際、ペーパータオルが破れ、盛り付け台や手などに付着し、弁当箱内に混入したことが原因と推測している。

**【再発防止策】**

- ① 弁当箱や盛り付け場所周辺の水分を拭き取る際は、強度が高く、破れにくい不織布ウエスを使用する。  
※不織布ウエスはこれまでのペーパータオルと同様に使い捨てとし、衛生面を保つ。
- ② 衛生面を考え、手洗い後の水分ふき取りはペーパータオルで行うが、手にペーパータオルが付着していないか原則職員が確認する。
- ③ 手拭き用以外のペーパータオルは厨房内から撤去する。

### 2) 毛髪混入事故

1月に弁当の盛り付けの過程で主菜（シュウマイ）の上に毛髪が混入する事故があった。令和3年6月の毛髪混入事故から時間が経過するにつれ、毛髪混入防止に対する意識が疎かになり、ネットや帽子、白衣を正しく着用していなかった可能性や、粘着ローラーでの異物除去や目視確認などが不十分になっていたことが原因と考えている。また、白衣や帽子の正しい着用方法、粘着ローラーでの異物除去方法などに関して、全体には昼礼での口頭による確認がほとんどで、定期的の実技講習を行っていなかったため、正しく着用できていなかった可能性も考えられる。

**【再発防止策】**

- ① 粘着ローラーによる白衣や帽子の異物除去や、白衣や帽子が正しく着用できているかの目視確認など、これまでの毛髪混入対策を徹底するとともに、定期的に職員、利用者で白衣や帽子、ネットの正しい着用方法や粘着ローラーでの異物除去方法などの実技講習会を月1回実施する（これまでの実技講習は、帽子など着衣が変更された時や、正しく着用できていない場合などの個別指導のみだった）。
- ② 帽子の下に着用するネットを今よりも安全性が高いと考えられる製品に変更する。（令和6年1月に実施済み）

## 9 その他の課題と成果

- 1) 昨年度末まで新型コロナウイルス感染症の影響で休止していた利用者健康診断を8月にあきる台病院の検診車にて実施した。
- 2) 当事業所が清掃業務を請け負っているワークセンター夢の樹 I 棟の男子トイレ及び夢風船のスロップシンクの清掃が不十分であると法人から指摘があり、職員、利用者に指摘内容を周知するとともに清掃方法の指導を行った。再発防止策として、清掃手順の見直しと、電話での清掃完了報告時にスロップシンクの清掃を行ったことを報告することとした。

### 10 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間  
(2) 開所時間 午前7時30分～午後17時30分  
(3) 年間延開所日数 243日間  
(4) 平均活動時間 雇用契約者 5. 5時間  
利用契約者 6. 3時間

### 11 利用状況

- 1) 利用者延人員 3, 448名
- 2) 1日平均利用人員 14. 2名
- 3) 年間実習人員 3名
- 4) 就労者延人数 0名
- 5) 私事都合退所者延人数 3名

### 12 利用者状況 (令和6年3月31日現在)

- 1) 年齢  
20歳未満 0名  
20歳以上30歳未満 1名  
30歳以上40歳未満 3名  
40歳以上50歳未満 9名  
50歳以上60歳未満 4名  
60歳以上70歳未満 1名
- 2) 障害の状況  
愛の手帳4度 5名  
愛の手帳3度 1名  
精神保健福祉手帳3級 5名  
精神保健福祉手帳2級 6名  
身体障害者手帳 3級 1名
- 3) 通所手段  
交通機関利用 5名 徒歩等 13名
- 4) 居住状況  
管内居住 11名 管外居住 7名
- 5) 性別  
男性 11名 女性 7名

### 13 利用者工賃

- 1) 雇用者一平均工賃  
月額： 102, 616円  
時給： 1, 113円 (参考) 東京都最低賃金
- 2) 利用者一平均工賃  
月額： 36, 133円  
時給： 400円

1 4 環境の整備

施設内外の美化と利用者周辺の整理整頓につとめ、危険の防止に努めた。

1 5 防災計画

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に予定していた小平手をつなぐ親の会と共催の防災訓練は、消防署の業務の都合で中止となった。